

【育てる】

養育費確保支援事業（ひとり親総合支援事業）（新規）【こども未来課】

1	<p>子どもの貧困については深刻な問題であり、とりわけひとり親世帯は一般世帯と比べ貧困率が高いと言われております。そのような中、ひとり親の大半を占める母子家庭においては、約半数が養育費等の取り決めをしておらず、離婚後の経済面が苦しい状況にあります。</p> <p>ひとり親世帯が、経済的に自立し、子どもたちが健全に養育される環境づくりを支援するため、ひとり親相談業務を充実し、養育費の必要性や公正証書等の手続方法等を支援するとともに、養育費確保につなげるための経費について助成してまいります。</p>
---	--

おたふくかぜ予防接種事業（新規）【健康づくり推進課】

2	<p>おたふくかぜはムンプスウイルスの飛沫感染により起こり、数年毎に大規模な流行を繰り返しています。現在は任意接種のため予防接種率は40%と低く、園や学校での大流行の原因となっており、感染すると耳の後ろが腫れるほか、難聴等の合併症を引き起こす場合がありますため、ワクチン接種費用の一部を助成します。</p> <p>おたふくによる難聴は予防接種により重症化を予防できることから、希望される方が接種できるよう支援してまいります。</p>
---	--

小・中学校体育館空調設備の設置（新規）【教育総務課】

3	<p>近年の猛暑に対し、児童・生徒の安全を確保するため、学校での熱中症対策に取り組む必要があります。そこで、地域住民の避難所としての役割も担っていることから、市立小・中学校の体育館に、空調設備を設置します。</p> <p>4年度は、中学校体育館に空調設備を設置するため、工事の設計に取り組みます。</p>
---	--

中学生学び舎支援事業（新規）【学校教育課】

4	<p>国による「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、全ての子どもたちの可能性を引き出す教育に加え、高等学校等への進学を見据えた学習意欲や学習習慣の定着、基礎学力等の向上を図ることが必要です。また、生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味や関心、意欲等を踏まえてきめ細かく指導、支援することが求められています。</p> <p>そのため、市内全中学校において、学習の基盤となる資質や能力の育成などを図るとともに、高等学校等への進学に不安を抱えている生徒に対し、自らの進路を選択できる力を養うため「中学生学び舎」を実施いたします。</p>
---	--

【稼ぐ】

綾瀬市中心市街地の活性化事業（新規）【公共資産課】

5	<p>中心市街地に多くの人を引き寄せ、新たな賑わいと交流を生み出すことを目指し、「綾瀬市総合計画2030」の戦略プロジェクト「中心市街地魅力UPプロジェクト」及び「次世代に繋げる公共施設改革プロジェクト」を定めており、集客性のある商業施設の誘致並びに図書館や文化会館等の再編に向けた取り組みが必要となっています。</p> <p>旧消防本部庁舎跡地及び大型商業施設における一体的な活用に向けて、魅力ある商業施設を誘致するため、プロポーザル方式にて事業者を選定いたします。</p> <p>また、図書館や文化会館等の公共施設においては、再編に向けて、組織を立ち上げ、施設の在り方を検討してまいります。</p>
---	---

稼ぐ農業推進のための事業（新規・拡充）【農業振興課】

6	稼ぐ農業の推進のため、販路拡大や綾瀬産農産物のブランド化による魅力向上が必要です。今まで市場出荷基準を満たせず、処分していた農産物の利活用に取り組む農業者の支援を行う制度構築により、農業所得の向上を促進します。併せて、産業まつりにおける「ふれあい大釜」でのリユース食器の活用を行うことで、環境に配慮した農業の振興を図ってまいります。
---	--

【支える】

蓼川地区公共施設再編事業（新規）【公共資産課】

7	人口減少や少子高齢化など、社会情勢が大きく変化する中で、一斉に老朽化した公共施設の維持管理とその費用確保が全国的な社会問題となっています。本市においても市内公共施設の多くが昭和40から50年代に建てられており、今後一斉に建て替え時期を迎えるため、「綾瀬市公共施設マネジメント基本方針」に基づき、計画的に整備していく必要があります。 このような中で、老朽化が最も進んでおり、地域からの要望の多い蓼川地区において、北の台地区センターを解体し、その跡地に地区センターと蓼川自治会館を複合した（仮称）蓼川コミュニティ供用施設を新たに建設いたします。
---	---

デジタル機器を活用した高齢者を支える事業（新規）【地域包括ケア推進課】

8	コロナ後を見据えたフレイル対策として、アプリを活用し、仲間同士オンラインでつながりながら、地域で気軽に取り組むことのできるフレイル予防事業を実施していきます。 認知症高齢者の増加に伴い、地域で認知症の人やその家族を支える「認知症サポーター」の活用がますます重要となってくることから、VRを活用した認知症状の疑似体験を行う研修を開催することで、認知症の症状をこれまで以上に理解したサポーターを増やしていきます。
---	---

分別用の紙袋の配布と効率的なごみの回収（新規・拡充）【リサイクルプラザ】

9	ごみの減量化につきましては、家庭系可燃ごみの搬入量増加に伴い、焼却施設や周辺環境の負荷が増大しているため、更なる減量化・資源化への取り組みが必要です。 資源化可能な紙類の分別徹底等についてPRする分別用の紙袋を配布し、混入防止の意識啓発を図るとともに、新たな仕組みにより、ごみ収集所に排出される剪定枝類の分離回収に取り組み、更なるごみの削減に努めてまいります。
---	---

【脱炭素化の推進】

脱炭素化に係る事業（新規）【環境保全課】

10	脱炭素化社会の実現に向けた動きが加速している中、行政の率先的な取り組みが必要となっております。 市の公共施設等におきましても、太陽光発電設備の導入を計画的かつ効率的に推進するため、未設置箇所における発電見込量や現地状況等、太陽光発電設備の導入に向けた調査を行ってまいります。
----	--

綾瀬終末処理施設の建設工事に着手（継続）【下水道課】

11	公共下水道事業においては、汚泥の減量化を図ることにより、事業の安定化の維持と環境への配慮を推進してまいります。 具体的には、県内では横浜市に次いで2つ目の事例となります、汚泥の処理過程で発生する再生可能エネルギーである、消化ガスの有効利用を図り、発電事業者へ売却するための消化槽の建設工事に着手してまいります。発電事業については、民設民営方式により運営する予定でございます。
----	--